

中島木材工業、能登初の技術導入

七尾市中島町の中島木材工業が、県内で三例目、能登では初めて木材を短時間で美しく乾燥させる金沢市の木材卸売業「フルタニランバー」の技術「Woodbe（ウッドビィ）」を導入した。木材利用の促進が期待され、両者の社長は林業や業界の活性化につなげたいと意気込む。

(大野沙羅)

木材乾燥 速さと美しさ実現



木材の乾燥炉の前で握手を交わす中島木材工業の大月博勝社長（左）とフルタニランバーの古谷隆明社長（右）七尾市中島町で

天日干し必要なく 林業活性化に期待

ウッドビィは、マグマの熱で溶けた黒曜石が急冷してできた軽石の一種、抗火石を敷き詰めた乾燥炉を使用。木材に水道水や井戸水などを浸透しやすい水に改質した一〇〇度以上の水蒸気を高圧で噴射し、高速で乾燥させる。昨年、いしかわエコテザイン賞のサービス領域で大賞も受賞した。

フルタニランバーの古谷隆明社長（左）によると、通常は半年かかる事前の天日干しは必要なし。木材によって変わるが、通常の約二倍の速度で乾燥できる。石の赤外線効果で木材に微細な粒子が入り込んで水分を細分化し、ひびや曲がり、ねじれを抑えた高品質な木材を作ることができるとしている。

中島木材工業では、国の事業再構築補助金を活用し、三十年ほど倉庫として眠っていた乾燥炉を導入した。燃料や水も削減でき、商品化までの時間短縮が魅力という。本格稼働は二月末からで、大月博勝社長（左）は「能登第一号なので活用して盛り上げていきたい」と話した。

古谷社長は「木材は乾燥が命。ノウハウや経験値を共有し、利用促進につなげたい」と語った。

羽咋で初フェスタ
羽咋eスポーツフェスタが二十三日、羽咋市のコスモアイル羽咋で開かれ、家族連れらが無料体験を楽しんだ。JR羽咋駅そばで二〇二四年夏に開業予定のにぎわい交流拠点施設にeスポーツスタジオができ、大会誘致を目指す機運の醸成で市が初企画した。

太鼓やカーレース、パズル、クイズなど六種類が用意され、対戦型では親子や友達で競った。メーカーによる自社のeスポーツの紹介もあった。

カーレースを体験した津幡町津幡小学校三年、中山一真君（九）は「楽しかった。運転している感じがしたが、カーブが難しかった」と感想。子どもを連れてきた同市柳田町、会社員山下まりさん（四）は「子どもが自分で対策を考えていたので頭を使うかな。家に閉じこもってゲームをする

eスポーツってイイ感じ



大勢の人でにぎわう羽咋eスポーツフェスタ。羽咋市のコスモアイル羽咋で

より外で友達と楽しくやってみてもらえれば」と話した。市内の男子高校生（七）は「市内にはゲームセンターが期待した。」（松村裕子）

もなく、遊ぶときは市外に行くので、駅前できればありがたい」と拠点施設に期待した。（松村裕子）

関東と能登出身者 銭湯巡る縁たどる



横浜市の銭湯「間門湯」から提供されたのれんなどを紹介する企画展。中能登町一青のふるさと創修館で

中能登町民が銭湯経営をしようと明治から昭和にかけて大都市に出稼ぎしていた歴史を伝える企画展「中能登町ゆかりの銭湯経営者たち」湯をめぐる能登人の足跡」が、同町一青のふるさと創修館で開かれている。三月十日まで。火曜・祝日休館。

企画展では、東京や横浜にある銭湯の多くの経営者が中能登町にゆかりがあることを紹介。出身者の子孫が今も経営する横浜市の間門湯が提供したのれんや風呂おけなども展示する。

二〇一七年に横浜ふるさと歴史財団が同館の企画展の準備で訪れた際、同町の

冬はまだまだ

でおすすめしネタずらり



すし職人が握ったすしのパックを購入する来場者（左手前）七尾市府中町の能登食祭市場で

冬の味覚「カキ」を味わえる催し「かき祭り」が23日、輪島市の観光地輪島朝市のイベントスペース兼飲食店「輪島朝市横丁」で始まった。25、26両日にも開かれる。

能登地域では七尾市や穴水町が産地として知られるカキを、朝市でも味わってもらおうと初めて開いた。今回は七尾産のカキを使い、網焼きや缶に入れて蒸し焼きにする「ガンガン焼き」などで味わえる。殻付きカキは1個200円で、焼き台の使用に500円かかる。他にカキフライ（700円）やカキご飯（350円）などもある。

初日は午前中で一部の商品が売り切れるなど、好評だった。網焼きコーナーでは朝市で買った魚なども焼くことができる。

朝市横丁を運営する坂井美香さん（55）は「能登の美味しい物を食べに来てほしい。朝市の露店が終わってからもやっているのだから、通りのにぎわいにつながれば」と話した。25、26両日も午前8時半～午後2時。（日暮大輔）

遠藤関大関 その先へ



出席者と記念撮影する遠藤関（中央）

穴水町出身の大相撲・幕内、遠藤関（三）は追手風部屋への激励会が二十二日夜、同町川島のキャッスル真名井で開かれた。集まった故郷の町民ら約八十人を前に、一月場所まで五場所ぶりに勝ち越した遠藤関は「先場所の成績で満足できていない。次の場所は元気な姿を見せられるようしっかりと稽古したい」と誓った。

追手風・遠藤穴水後援会が主催し、コロナ禍で町内開催は三年ぶりとなる。遠藤関は、出席者からの質問に答える形で「国支店から

拍手だけじゃなく声援も少しづつOKになってきて、改めて歓声を聞くと気持ちが高ぶった」と先場所の取組を振り返った。

後援会長の石川宣雄前町長は「これからも現役を続けてもらって、大関を目指して頑張ってもらいたい」とエールを送った。吉村光輝町長は「活躍することで町民に元気が出る。頑張る姿をずっと見ていたい」と期待した。特設の金びょうぶ前では遠藤関と出席者の記念撮影もあった。（小水大晃）

明治期の七尾 びっくり



七尾市小丸山小学校で、明治一昭和時代の同市内の懐かしい街並みが分かる写真が展示され、「ふるさと歴史学習」として児童らが街の多岐多岐を学んでい

同館担当者は「町出身者が大都会に出て銭湯文化を築いたことを知ってもらえれば」と話す。志賀町など町外の調査も進めており、町ホームページで調査成果を随時更新する予定。（染谷明良）

野村総研 今後の世
七尾
北陸銀行
先で構成
総会と講
和倉温泉
野村総研
エコマニ
が「米国
世界経済
話した。
同会は二
社が参加
懇親会、核
している。
ふりとな